京町家ステイ

泊まる

お泊りは京ならではの和のお部屋に。

せっかくの京都の旅は、とことん京都らしい"和"にこだわってみてはいかが？
和のお部屋なら、日本の伝統に触れられるはず。海外からも注目されている人気の宿を紹介。

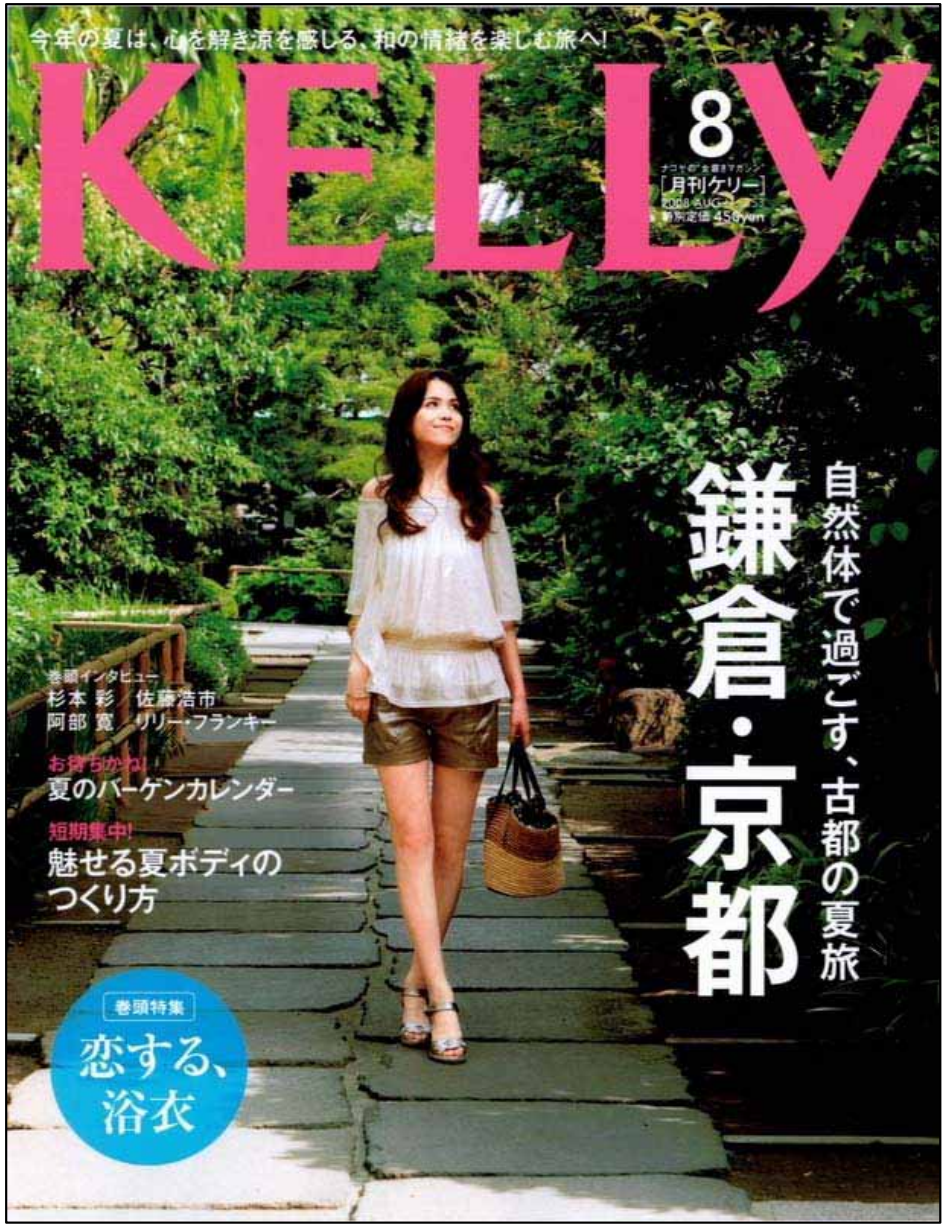
日本の文化と伝統を直接肌で感じる町家ステイ。

いつもと違った旅がしたい、京都の暮らしを体験したい、そんな人におすすめなのが、町家ステイ。「消え行く町家を残し、町家を通して日本の美と伝統に触れてもらえれば」とさんな思いから、内装をモダンにリノベーションした什器より町家が誕生。8棟ある庵の町家のなかでも今年3月にオープンした鴨川を臨める床を設えた材木町の町家は人気。1階の李朝のバンダンの中には流し台が設置されていたり、調度品も素敵。床でおばんざいの夕食を取り、2階の窓辺でゆったりお酒しながら季節の移ろいを楽しめば、京女気分に浸れる。ほかにも情緒溢れのある祇園新門前町家など、場所もおきもそれぞれ違うので、いろいろ満喫して。

日本河原町
庵 材木町町家
イオリ ザイモクチョウマチヤ
☎075-352-0211（事務所）
MAP→P107-C5

京都市下京区木屋町松原下ル
IN16:00/OUT11:00
宿室／8棟
料金／33,000円～
（2名まで。一棟貸し。サービス料込み）
※最大4名まで利用可能。但し、人数に応じ料金は異なる。
※別の町家は要問合せ
※犬、金魚等禁
www.kyotomachiya.com/

102



KELLY 2008年8月

京町家ステイ

26 庵〜祇園新門前町家

まるで「暮らすように」泊まる贅沢

古くは茶道具商が軒を列ね、今も古美術商や画廊が点在する祇園・新門前通り。この一角にたたずむ町家で、暮らすように泊まることができるなんて、とても贅沢な気分。チェックイン時に鍵を受け取るだけという、滞在型一棟貸しのお宿です。丁寧にリノベートされた京町家の空間は、暮らしの気配を残しながらも、骨董の調度品やアジアの上質なインテリアがセンスよく配置され、極上のひとときを演出してくれます。

DATA

住京都市東山区新門前通大和大路東入ル
☎075-352-0211（代） 料平日2名1泊8万50,000〜（税込、人数や季節によって異なる）
IN16:00（応相談） OUT11:00
祇園の芸・舞妓の「舞」を鑑賞できる特別プランも。http://www. kyoto-machiya.com

28 白梅

若女将のおもてなしがうれしいお宿

祇園街の真ん中をゆるやかに流れる白川沿い。橋の向こうで揺れる、梅を染め抜いた暖簾が目印の、和のお宿です。この場所で静かに140年の歴史を刻む聚落壁や網代の天井など、館内のそこかしこに、元お茶屋ならではの風情が残っているのが魅力。宿泊は片泊まりから1泊2食まで、また食事だけでもOKと、使い勝手のよい料理旅館です。

DATA

住京都市東山区祇園新橋白川筋（四条縄手上ル東入ル） ☎075-561-1459 料1泊2食付き¥22,000〜、1泊朝食付き¥15,000（税・サ込、部屋のタイプと人数によって異なる）
IN15:00 OUT11:00
http://www.shiraume-kyoto.jp

27 HOTEL SCREEN KYOTO

日本初の"セレクタブルホテル"はいかが

昨年末に誕生したばかりのこちらは、リノベーション型デザインホテル。13室のゲストルームすべてを、国内外の13組のクリエーターがデザイン。各室の老舗とコラボしたアメニティグッズや調度品もモダン。御所南のグッドロケーションで、遊ぶ楽しみ、迷う楽しみを味わいたい。

DATA

住京都市中京区寺町丸太町下ル下御霊前町640-1 ☎075-252-1113
料平日1泊朝食付き¥44,100〜（サ込）
IN15:00 OUT12:00
http://www.hotel-sc ream.com

InRed 2008年8月

京町家ステイ

一軒まるごとお好きなように。
粋な町家暮らしを満喫

●西陣周辺町
庵 材木町町家
☎075-352-0211

Menage KELLY 2008年秋冬

京町家ステイ

みどころ

京町家の特徴を残した情緒ある造り

木をふんだんに使った温もりある空間

箱膳台の扉を開いてみると…自由に使える朱塗りのお膳セットを発見！　お宿で食事する時も雰囲気を大切にしましょ

みどころ

1：かつではお茶屋さんや老舗の料理店を根来先に持つ生け花店「花直」という立派な商家だったそう。2：2階は寝室のほか、ほどよい狭さが落ち着く4畳半の部屋が。約140平米ある建物をどう使うかは、ご自由に！

1：庭に面したガラス張りの窓を空間できる和室。2：せっかく祇園の真ん中だから、自然より外食をオススメします

ツツジやもみじ、南天が彩る坪庭を楽しめる、1階奥の明るい一室

水鉢を。坪庭に面したお風呂のガラス屏は、全開して露天風呂気分を味わうことも。使いながら気付くのが楽しい「工夫」がいっぱいなのです。同じ町内には、京舞のお家元のお住まいがあり、お稽古に通う舞妓修行の「仕込みさん」が家の前を通るそう。祇園という町を肌で感たいなら、ここに決まりですね。

MAP (p93) 3-C

- 住所　京都市東山区新門前通大和大路東入
- アクセス　京阪電車「祇園」駅より徒歩5分
- TEL　075-352-0211
- URL　http://www.kyoto-machiya.com/
- 営業時間　チェック・イン16:00　チェック・アウト11:00
- 料金　1棟1泊¥40,000（2名まで。6名なら¥110,000）～　※シーズンにより異なる
- 休み　無休
- CC　不可

ごはんは街へ繰り出して

庵　祇園新門前

イオリ　ギオンシンモンゼン

祇園の色濃い京町家でぜいたくな時間を

みどころ

「ここを貸し切っちゃっていいの？」と思わずにはいられない、重厚な雰囲気のリビング。吹き抜けの高い天井には天窓が

こちらのお宿があるのは、祇園の中でも味わい深い町家が並ぶ、新門前通（しんもんぜんどおり）。美術商や古美術商が多く、美術ストリートになっています。

お宿に着いたら、まず町家独特の虫籠窓（むしこまど）と格子が凛とした佇まいに「京都まで来たんだな～」としみじみ。中へ入ると予想以上に広い玄関土間に驚き、奥へ進んで吹き抜けの開放的なリビングに、ちょっとドキドキ。そう感じてしまうのは「庵」流の「ぜいたく空間」の演出があるからこそ。例えば、リビングの床は畳ではなくヴィンテージの樺（カバ）を使い、より温もりのある空間に。洗面台には信楽焼の

京の夜、ホントのイイとこ案内しちゃう

京都でお泊り

京都に行くなら、京の奥ゆかしさを感じるところに行きたい。でも、本当に「京都」らしいスナキなところって、どこなんだろう？そこで、思い切って、キを脱いで、そじょしまいたくなるところばかりを集めました。ホントの「京都」を知る通がおすすめするところはどれも、高級です！

京都でお泊まり 2008年秋

京町家ステイ

町家の宿

小さな宿に泊まって、京町家の佇まいを知る。

ホテルとも高級旅館とも異なり、「町家ならではの不便さを楽しむ」「季節を体感する」ことこそが町家宿の醍醐味。使い方を知れば、京都の旅が数倍面白くなりそう!

特別な一日のために。ちょっと贅沢な上質の京都時間。

庵—三坊西洞院町町家—

☎075-352-0211（庵）◎西洞院御池

夢の中で空想の翼が広がる古き良き時代の暮らしぶり。

もとは「おめし屋さん」「料理屋」の離れ。その後改修して施家のアトリエとして使われたという、ちょっとユニークな歴史を持つ建物。2階は、1階のシックな茶室とは180度印象が異なり、スイートルームのようなダイナミックな空間。ゆったりとしたソファに身を委ねながら「改修前は、いかにもアトリエらしく、画材が並び書棚やイーゼルなどが残されていました」という話を聞けば、前人であった前の住人の姿さえ思い描ける気がするから不思議。大切な人と、自由で贅沢な、とっておきの京都スタイル。

1「庵」のプロデューサーはアメリカ人のアレックス・カー氏。この街に滞在するだけで、改めて和の美意識、日本家屋の奥ゆかしさを知るきっかけになりそう。2チェックイン時に鍵を預かれば寝はわが家のように自由に出入り。3「丸久小山園」のお茶で一服。4エントランスすぐにお茶室。客人の多いサロンであったことがうかがわれる。5極めれば風呂、待合との間の引き戸を全開にして開放的な気分を満喫してみても。6階段を上れば、思わず感嘆の声がこぼれてしまうダイナミックな空間へ——

■宿泊データ

¥30,000～（1棟1日）
●京都市中京区西洞院通御池下ル
料金1棟1日¥39,200～（2人まで）、¥72,000～（4人まで）など　IN16：00 OUT11：00　全体取扱
最新の予約状況などの情報はhttp://www.kyoto-machiya.com　MAP 巻頭C-3

36

Hanako WEST 2008年11月

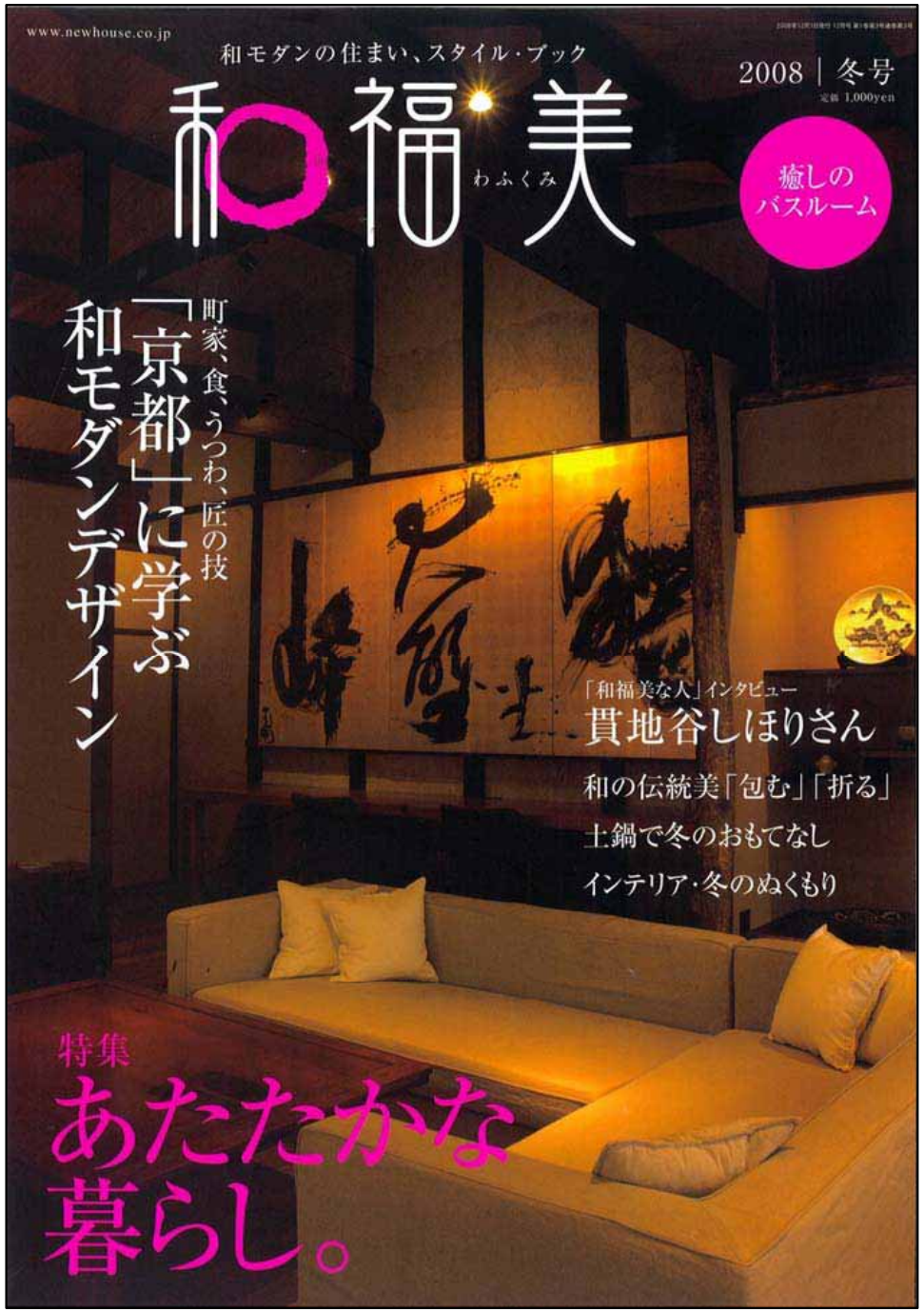
京町家ステイ

OZmagazine　2008年11月

京町家ステイ

OZmagazine　2008年11月

京町家ステイ



和福美 2008年冬

京町家ステイ

京町家モダン
Kyoto machiya modern

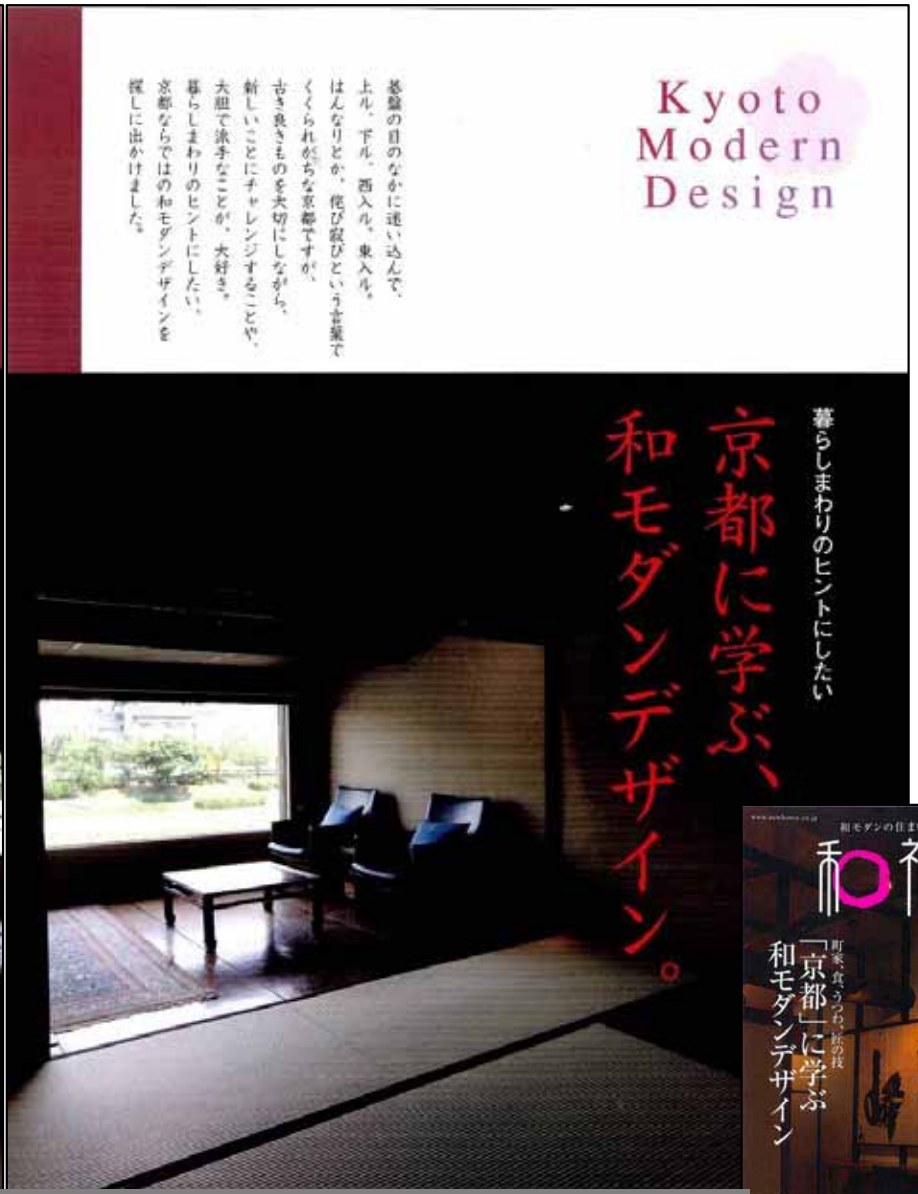
古き良き時代の面影を宿す町家。でも、残念ながらそのままでは現代の暮らしには合っていない。それならば、快適に過ごせるように町家を大胆にリノベート。

食べもん、うつわ
Kyoto dining

舞妓さんの下駄がカラコロ響く祇園にカフェ+うつわのショップが登場。一方、スウェーデンの建築家が設計したモダンなビルには、なぜか日本料理の板前さん。

匠の美と技
Japanese craftsmanship

襖絵、西陣織、和傘などの京都の伝統工芸と、デザインホテルの刺激的なコラボレーション。斬新でアバンギャルドな空間に驚きながらも、心憎いおもてなしに感激。

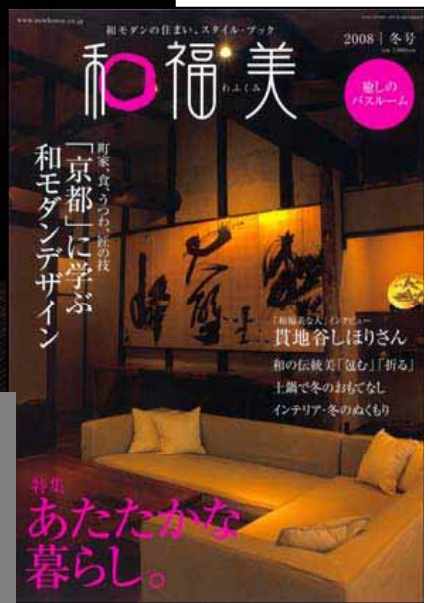


Kyoto Modern Design

基盤の目のなかに迷い込んで、上ル、下ル、西入ル、東入ル。はんなりとか、侘び寂びという言葉でくくられがちな京都ですが、古き良きものを大切にしながら、新しいことにチャレンジすることや、大胆で派手なことが、大好き。暮らしまわりのヒントにしたい、京都ならではの和モダンデザインを探しに出かけました。

暮らしまわりのヒントにしたい

京都に学ぶ、和モダンデザイン。



和福美 2008年冬

京町家ステイ

京町家モダン

Kyoto Modern Design

暮らすように楽しんで京町家の魅力を知る

町家とは、職住一体型の住宅形式。つまり、店と住まいが一緒になった家をさす。なかでも京都町家は、格子バ、虫籠窓など、独特のつくりを兼ね備えた伝統的で美しい家屋。原型は江戸時代中期に完成したものの、現存するものは、明治、大正、昭和にかけて再生されたものがほとんだ。

京町家に住む体験ができるのが、株式会社地の町家ステイ社長、東洋文化研究者でもあるアメリカ人のアレックス・カー氏が会員を務める、文化庁のように勧めるだけではなく、泊まることで京町家の良さを体験しようという試みだ。所有するりつの京町家は、建てられた時期、間取り、広さ、雰囲気ともさまざま。1棟を貸切りにするので、プライベート感覚で滞在することができる。

京都といった風情の、材木町にある京町家、玄関の格子を開けるとリビングがひかり、奥の外は竹庭が流れる。

新鮮なのが、京町家の古い柱や壁に調和するモダンなインテリア。たとえば、カッシーナのソファ、本例のハンダジという鬼、江戸後期の神風、アンコール時代の仏頭、チベットのラクダなど、国籍も時代もバラバラだが、それが不思議なくらい調和して和の空間に収まっている。

ロコヤシのカーペットが敷かれたリビングの床には、洗面所、バスルームにも無許の設備が入っている。

もともとは町家も、住む人が快適に暮らすためにできた形だが、古き美しさはそのまま、しかし現代の生活にそぐわない部分には、大胆に手を入れているのが印象的だ。

和福美 2008年冬

京町家ステイ

京町家モダン
Kyoto Modern Design

画家である主のサロン兼アトリエ。
お茶のお師匠さんが暮らした家。
丹波の豆問屋のお店を兼ねた住まい。
かつて、そこに住んでいた人々のストーリーを
町家の「用の美」に垣間見る愉しさ。

芥川や谷崎と親交があった主が住んでいた家

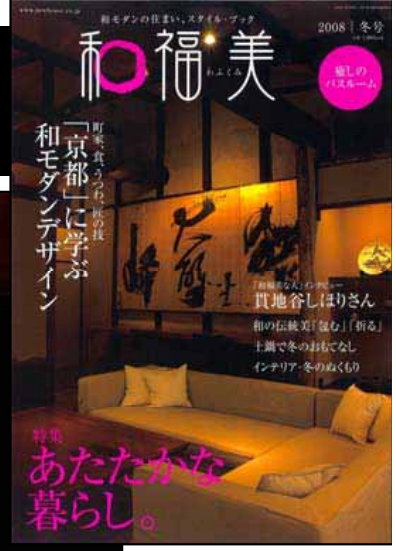
決に選れたのは、三坊西洞院町にある和洋折衷・数寄屋風の京町家。幕末年間に建築とおぼし屋（絹織屋）の工房として、明治末年に建てられたものだ。かつてはパリ万博にも出品し、営業するなど家業は順調だったが、第二次大戦中に絹織は贅沢品とみなされ廃業。のちに、その家業であった画家・小林南郊の住になりアトリエとして改修された。芥川龍之介や谷崎潤一郎とも交流のあった南郊は、この町家を芸術家たちの集まるサロンにしたのだ。

この町家の改修にあたって、2階の天井をはずすと出てきた太い梁からは、墨書きで、明治3年と棟梁の名が記されていたという。また、いつの時代かは不明だが、大小の布袋の置物が出てきており、これは屋根裏に飾られている。また、南郊が絵を描くために改築したといわれる大きな窓の奥には、この町家に放置されていたという古いロッキングチェアが残っている。

町家は、そこに住んできた人を癒し出す場でもある。彼らが暮らした空間を共有させてもらうことで、古きよき時代の精神性まで感じることができるのも、京町家の良さだろう。

❶奥 三坊西洞院町町家の定番マモシ。もともとあった2階の天井を剥ぐと、日光を家がとおるに、ソファはイダーテーブルは建具を天板にしたもの。毛織の絨はアレッシス氏とその弟子の制作。夏はエアコン、冬は床暖房がある。
❷玄関から隠家と向き合うその絵を望む。
❸日本家屋では考えられない大きな窓は、隠家が絵を描く際の明かり取りのため。ロッキングチェアは窓に残されていたもの。生地を張り替えた。
❹宇賀天の絵画風にリノベートされたバスルームは、漆喰塗り壁の風呂。隠家の建ての間にある坪庭には、昔から本当かさる柿（ほこら）をそのまま残っている。
❺階段を上がって2階のリビングへ。

●DATA：株式会社庵（いおり） Tel.075-352-0211 http://www.kyotomachiya.com
＊予約制で行っている町家は、p64の杉本家、p66の7つ目洞院町の2つです。宿泊料金に関しては、サイトを参照のこと。



和福美　2008年冬

京町家ステイ

石不動之町
いしふどうのまち
京都市下京区松原通新屋町
料 1棟2万5000円～（2名まで）
定員2名
入 16:00 出 11:00

恵美須屋町
えびすやまち
京都市下京区室小路通高辻
料 1棟3万円～（2名まで）定員6名
入 16:00 出 11:00

西六角町
にしろっかくちょう
京都市中京区六角通新町
料 1棟3万5000円～（2名まで）
定員6名
入 16:00 出 11:00

西押小路町
にしおしこうじまち
京都市中京区押小路通東洞院
料 1棟5万4000円～（6名まで）
定員14名
入 16:00 出 11:00

筋屋町
すじやまち
京都市下京区室小路通仏光寺
料 1棟5万2000円～（4名まで）
定員10名
入 16:00 出 11:00

和泉屋町
いずみやまち
京都市下京区米屋町松原上ル
料 1棟4万円～（2名まで）定員6名
入 16:00 出 11:00

祇園新門前
ぎおんしんもんまえ
京都市東山区新門前通大和大路
料 1棟3万5000円～（2名まで）
定員6名
入 16:00 出 11:00

材木町
ざいもくちょう
京都市下京区木屋町松原下ル
料 1棟3万7000円～（2名まで）
定員4名
入 16:00 出 11:00

三坊西洞院町
さんぼうにしのとういんちょう
京都市中京区西洞院御池下ル
料 1棟3万9000円～（2名まで）
定員6名
入 16:00 出 11:00

※人数と時期により料金は異なる

庵
いおり

趣向の異なる9軒の町家が個性的な滞在を演出

京の伝統家屋である美しい町家の文化を次世代に残したいと、町家の再生活動を行なっている庵。築年数や間取り、趣向もすべて異なる9軒の町家を京の街なかに用意。どれも1棟貸切タイプなので、自由な時間を過ごすことができる。平成20年(2008)の秋にオープンしたばかりの「三坊西洞院町」は、もともと画家のアトリエだった明治5年(1872)築の町家をリノベーション。当時は、吉川雄之介や谷崎潤一郎などの文豪と交流があったとされ、茶室も残り、サロンとして使われていたことがうかがえる。檜風呂や信楽焼の洗面所など、細部にまで趣を感じられる配慮がうれしい。希望すればコンシェルジュサービスも行なってくれるので、旅がいっそう楽しくなること間違いなしだ。

MAP P.139 C-1
075-352-0211
京都市下京区室小路通高辻上ル筋屋町144-4（事務所）
阪急・河原町駅から徒歩5分
http://www.kyoto-machiya.com/

右ページ
三坊西洞院町
1 大きな梁が残された2階の板間リビング。和洋折衷のモダンなイメージ
2 2階とはまた趣の異なる1階の和室。四季を感じられる坪庭を眺められる
3 数寄屋風造りの家屋の玄関部分。入るとすぐに素朴な茶室がある
4 もとの名である「石僅房（せきえんぼう）」と書かれた看板が掲げられている

材木町
5 川に面した床を備えており、扉を開けると別世界が広がる

西六角町
6 虫籠窓と格子戸が特徴。虫籠窓から差し込む光は幻想的な美しさだ
7 2階は、町家の空間にマッチしたオリエンタルなインテリアとなっている

祇園新門前
8 開放的で広々とした檜のバスルーム。浴槽から美しい庭を眺めることも
9 骨董や古美術商が並ぶ新門前通にあり、東山散策に便利なロケーション
10 明治時代の町家を見事に再生。祇園に住むという贅沢な体験が可能だ

京都の素敵を暮らしのなかに。

この空間。この瞬間。私だけのもの。

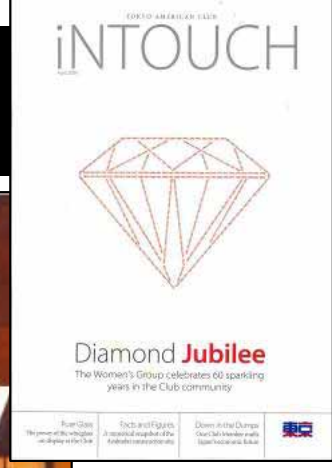
暮らすように。町家のステイ

町家を1棟貸し切って、暮らすように滞在する。京都をより深く知るための、新しい旅のスタイル

一文字呂や格子戸といった美しい外観に、小さな開口で表情のある独特の造り。季節を感じる坪庭。そんな京の伝統文化である町家に、一度住んでみたいと憧れを持つ人も多いのでは。そんな憧れを実現してくれるのが、町家の宿泊体験。ホテルや旅館と違って元来した設備とサービスはないが、少々の不便さはあってもそこに暮らすように過ごすのが特徴。木造建築のため、基本は禁煙、テレビやアメニティなどは無いが、食事付のところは少ない。だが、外界から切り離された静かな空間で、時間を気にせずくつろげるのが町家宿ならではの醍醐味。生活するように滞在する、町家ステイを体験してみませんか。

素敵な場所、しあわせ時間　京都　2009年3月

京町家ステイ



OUT & ABOUT

Kyoto's culinary delights on your doorstep?

While I traveled in chilly February, by April the gray tones and bare trees that line the canals and streets should have magically transformed into a riot of pink and white cherry blossoms. All nine of Iori's restored machiya (the largest of which accommodates 14 people) are perfectly located to enjoy this stunning spectacle.

Kyoto offers the *sakura* addict thousands of opportunities to admire its brief beauty. Simply walking around the backstreets offers a breathtaking experience. Those in the know combine the allure of the season with Kyoto's cuisine, renowned for its highly refined and artistic style. The vegetarian cuisine (*shojin ryori*) of many Kyoto temples is well worth trying. The tofu-based meals are typically served for lunch in small temple teahouses like Seizanmodo restaurant in the grounds of Tenryu Temple in Arashiyama.

Be warned, though, that you will have to jostle with throngs of tourists at Kyoto's most popular sakura-viewing spots, such as the Philosopher's Walk and Ryoan Temple's Zen gardens. But these are still worth the effort. The latter, a World Heritage site, opens at night for people to see the beautifully illuminated cherry blossom trees. Go late to avoid the crowds.

To enjoy a wide variety of blossoms, locals recommend Haradani-en, a private garden with hundreds of mature cherry blossom trees. The 1.3-hectare enclosure is closed for much of the year, but opens during the *sakura* season. Other good spots include Maruyama Park, Heian Shrine and Ninna Temple, famous for its late-blooming *omuro* cherry trees.

The city is also a treasure trove of sakura-themed souvenirs. Karacho, established in 1624, specializes in handmade wallpaper and screens in elegant floral patterns. Ichiya is where *geiko* (the Kyoto term for geisha) buy exquisitely decorated, wooden *geta* sandals, while on the 21st of each month, the grounds of the Toji Temple are transformed into Japan's largest and oldest flea market, with antique kimono and *obi* belts, calligraphy, tea ceremony artifacts and intricately dressed Japanese dolls all for sale. A smaller market for antiques is held at the temple on the first Sunday of each month.

One of my favorite places for picking up a memento is Lion. The modern incense salon has a range of seasonal incense and accessories that will keep Kyoto springtime memories alive long after you've returned home. □

Old-World Beauty

by Catherine Shaw

The *shoji* screen door made a soft sliding sound as I opened it and stepped off the *tatami* mat onto a small wooden deck to survey Kyoto in the early morning light. Instead of the anonymous luxury of an international hotel or the formal traditions of a *ryokan*, on this particular visit to Japan's ancient capital I opted to stay in a restored wooden townhouse, or *machiya*. To my surprise, I found that the experience transformed my appreciation for the city.

Once the traditional home and workplace of most Kyoto residents, the machiya, with its narrow façade and elegantly simple architecture, is fast disappearing as younger generations embrace modern living spaces. Thankfully, American Alex Kerr, well known for his books, *Lost Japan* and *Dogs and Demons*, and efforts to preserve Japan's traditional culture, has stepped in to help conserve this piece of Kyoto heritage and offer visitors a unique adventure in the temple-soaked city.

Iori, the company co-founded by Kerr, is staffed by friendly, English-speaking staff who provide visitors with useful information about their temporary home, recommendations for nearby cafés and restaurants, maps, inside tips on seeing the city and a 24-hour emergency number. Cooking facilities at the machiya are limited to a microwave and kettle, but who would want to cook with

iNTOUCH TOKYO AMERICAN CLUB 2009年4月

京町家ステイ

木屋町・鴨川へ

夏の京都暮らしは鴨川沿いの邸宅で

1 中心地へすぐの好ロケーション
2 まるで床席。鴨川の眺めをふたり占め
3 京都のうまいもんでおウチごはん

[illegible]

[illegible]年にもない贅沢を与えてくれる空間。

着物はない。その場所を知ることが許されるのはゲストだけ。閉ざされた門を開け、石畳のアプローチを奥へと進む。お香の香りに包まれた玄関。そして格子のシルエットが美しい情緒を開けると……さこは鴨川だ。ドラマティックに登場する鴨川の景色は、京都暮らしの始まりを強く心に印象付けてくれる。縁側に入った絵のようなこの景色を眺めていると、既俗りに動き回る京都社会が嘘事に思えてくる。なにもせずにただゆったりと過ごしたい、そんな気持ち。ここはさしずめ、杉のリゾートか周りといったところだろうか。

町家という造りではあるが、居心地はホテルクラス。1階はカフェシーナのキッチンが設かれたモダンラウンジとテラス付きの座敷。2階は鴨川が望める座敷とベッドルーム。そして玄関側の座敷の計3部屋という内容。グループでシェアするのもまだが、やはりこの空間には『ふたりきり』が似合う。

宿からは中心地である四条河原町に先斗町、祇園へもすぐ。自慢ての居酒屋ランチやディナーもいいが、例えば京都の台所である錦市場で京野菜を使ったおばんさいや旬の鮮魚を購入し、鴨川を眺めながらお酒と共にいただく……というのもこれ以上ない贅沢。しっぽりとふたりきりで楽しめる川床が、さらに旅を盛り上げてくれるだろう。

庵 和泉屋町

[illegible]

14

FRaU *Kyoto* 2009年5月

京町家ステイ

和泉屋町

高瀬川の桜並木が美しい木屋町通りに門がある「和泉屋町」の町家。鴨川の桜を眺められ、人気が高い。2名利用の場合1棟¥40,000〜。最大6名で利用できる。
❶1階の居間は洗練された設え。階段の脇には、電子レンジ、冷蔵庫などのあるミニキッチンが
❷木屋町通りから門を入れば、京都らしい情緒ある小路が続く
❸寝室にもなる2階の客室
❹1階の和室は、弓なりの舟底天井が特徴。鴨川の眺めも美しく

庵

☎075-352-0211

MAP ❷-D

京都市下京区室小路通四条上ル鶏鉾町144の6
町家9軒で1棟貸切。定員2〜14名(各棟で異なる)。設備：エアコン、電子レンジ、タオル、リネン、シャンプーなども全棟完備。食事の手配や店の予約サービスも。全棟禁煙。TVなどオーディオの設備なし。
予約はホームページから。
http://www.kyoto-machiya.com

材木町

鴨川沿いの「材木町」の町家は、2つの和室と、洋間、居間のある木造2階建て。鴨川にせり出した床も広々。洋風のバスルームも快適。❶桜を望む2階の洋間。❷1階の居間にはモダンな家具が。2名利用の場合1棟¥37,000〜。

長逗留で桜三昧。

今、泊まりたい、風情あふれる町家の宿

石畳の路地、格子の窓や坪庭など、古き趣を漂わす町家に泊まる。ホテルや旅館では味わえない京都の日常にひたる「町家ステイ」が今、注目されている。京都に暮らすように、桜三昧のひとときを。

❸写真上の2階の洋間に続く和室は、ふとんを敷き寝室としても使われる
❹1階の和室の先には、鴨川にせり出す床が。夏の夕涼みも楽しめる

京町家を楽しむには

ほとんどの町家は、空室状況をインターネットで確認。宿泊予約もインターネットから。1棟貸切なので、貸し別荘の感覚で家族やグループでの利用が楽しい。キッチンでは、火が使えないため調理はできないが、食器類はそろっているので、好きなおばんざいを買ったり、仕出し料理を頼むのがおすすめ。タオルなどリネン類は用意されているが、寝巻きや歯ブラシがないところもあるので、事前に確認を。

京都人になる町家滞在 日常生活の中で眺める桜

京都に暮らす——そんな気分にひたれるのが、古き京町家で過ごす「町家ステイ」だ。最近、所有の町家を観光客の宿泊に提供する個人や会社も増えており、なかでも市内に9軒の町家を運営・管理する「庵」は、その先駆け的存在だ。ここの特徴は、洗練されたリノベーションにある。吹き抜けの心地よさや採光などの町家らしさはそのままに、モダンな家具や調度品など、居住性を高める工夫が随所になされているので、初めてでも安心して泊まれるのがうれしい。「町家は1棟貸しですから、ほかの人に気兼ねなく過ごせます。食事は、外食が好きな料理を持ち込んで自由に。町中にあるので買い物や観光に不自由はありません。一歩外に出れば、そこに暮らす人の日常に触れられます。その日常感が、町家ステイならではのおもしろさでは」と、「庵」広報の川島志保さん。1泊から利用できる町家だが、ぜひ連泊して、京都の人と同様に暮分に花びらたりたい。自分でカギをかけ、京都の家感覚で過ごす「町家ステイ」。この春、その楽しさを、ぜひ体験したいものだ。

桜めぐりの京都　完璧コンシェルジュ2009　2009年3月

京町家ステイ

Renovation
再生

「庵」が提案する町家ステイ

外国人の目線で“京の美”守る

東洋文化研究者のアレックス・カー氏が中心となって事業運営する京都の町家ステイが、外国人観光客らの注目を集めている。5月30日には鴨川沿いの美濃屋町に運営会社「庵」として10軒目の町家が開業。事業開始から7年目にして一定の支持層をつかみ、事業は軌道に乗り始めたようだ。

取材・文／近畑武彦

鴨川を眺める上質な空間

美濃屋町にオープンした町家は、開放感に優れているのが魅力で、リビングからは、鴨川、祇園、そして東山の山並みが望める。事業運営会社の「(株)庵」は03年に東洋文化研究者の米国人アレックス・カー氏が中心となって設立された会社で、京町家ステイと日本の伝統文化体験研修事業を中心に業務を行っている。欧米人に人気の異文化体験、京町家に泊まる体験を提供する庵でも、予約の4割を外国人が占めるという。

美濃屋町町家は、賑わいのある四条河原町や祇園へは徒歩圏で、アクセスの利便性が高い。近隣の高瀬川沿いは、隠れ家風の小さな食事処が軒を連ね、落ち着きのあるしっとりとした佇まいだ。

この町家の特徴は、「鴨川ワイドビュー」と「快適な水回り」、そして「アプローチの庭」の3つであると説明してくれたのは、庵スタッフの川島志保さん。鴨川に突き出したテラスと一体になったリビング（1階）、そして15畳の和室（2階）から眺める3.5間のワイドビュー。鴨川ビューの檜風呂（1階）、ホテル仕様のシャワールーム（2階）の新しい水回り。通りからの細い路地を抜けると、開放的な庭が広がっているアプローチである。

この10軒目の町家は、昔ながらの庵らしい洗練さを持ちながら、景観を楽しめるという点が際立っている。「今後、こちらは長期滞在型のお客様が増え、読書するなど、のんびりと過ごす方が多くなるのでは」と川島さん。ライブラリースペースは屋根裏部屋に設けられている。

敷地内には2棟があり、通りに面した建物は多目的スペースにするために現在改装中。奥の棟が、町家ステイとなる建物である。京の町家で暮らすように過ごすという庵の基本コンセプトに従い、改装は昨年12月に始まった。建物の保存状態が良好であったため、必要機能を付加する個所以外はほとんど手を入れず、そのままの良さを活かした。もともと水回りがなかったため、改修の際にはオリジナルの雰囲気を壊さないよう配慮がなされている。

格子戸の玄関を開けると、お香がたかれ、来客を優しく迎える。天井は桐代、細工の施された照明。玄関の上がり口と三和土（たたき）との段差が大きいため、表面を「なぐり」で仕上げた木のあがり台が置かれている。修学院離宮の庭にあった例水から作られたものだ。

廊下を抜け、フローリングのリビングに出ると、一気に開放感のあるスペースになる。鴨川の大パノラマが大きく飛び込んできて、その急展開に目を見張る。上品な白いソファは、地元の家具職人が作ったオリジナル。壁には屏風、テーブルは江戸時代の戸板を利用して作ったもの。レトロとモダンの織りなすサプライズな空間である。

日本の文化を守り、伝える

オープン前日まで大工や建具職人が最後の調整をしている。スタッフも細かいところを丹念にチェックしていく。しつらいの完成度などすべてデジカメで撮影し、海外出張中のアレックス・カー氏にメールで送信して確認をとる。庵の独特な町家のスタイルは、彼の美意識によるところが大きい。

アレックス・カー氏は1952年に米国で生まれ、エール、オックスフォード両大学で日本学と中国学を専攻し、77年から京都府亀岡市に在住。京都をはじめ日本各地で文化講演、執筆活動などを続け、国土交通省・美しい日本の歴史的風土100選選定

Renovation

1.リビングからは鴨川や東山が一望できる。ついたてはカー氏が持っていた骨董のコレクションから 2.格子戸の玄関スペース。中庭は全面的に造り替えた。真夏でも風通しが良い 3.江戸時代の戸板を活用したリビングのテーブル。脚を付け、ガラステーブルを載せると、見たこともない面に 4.主寝室。壁や床の間はあいものをそのまま活かした。最大6人まで泊まれる。ほかに畳の部屋が2つある

TRAVEL JOURNAL　2009年7月

京町家ステイ

委員会委員、YOKOSO！JAPAN大使を務めるなど、大変な日本通である。また、骨董品のコレクターとしても知られる。古いものが壊されていく現状を憂い、庵という会社は、そんな彼に意気投合した2人の日本人とスタートさせた。カー氏は、「趣のある京都の町並みが、マンションやビルへと変わっている。そこで日本の文化を守り、伝えるには、新しい技術と仕組み作りが欠かせない。それが町家再生事業だ」と言う。

年々減りゆく美しい町家を庵がオーナーから借り受け、誰もが利用し滞在できる施設として改修・再生している。ちなみに、消防法の問題から宿泊施設の登記をしていないので、短期賃貸借契約の利用になる。1棟貸し切りという方法をとり、スタッフはチェックインとチェックアウトの時間にやって来るだけ。まさに「住まう」感覚で、滞在できる。

町家再生事業に取り組むアレックス・カー氏

コンドミニアム同様の住む体験

そんなスタイルが外国人に受けている。欧米では、長期滞在する場合、コンドミニアムを利用するケースが多く、庵の町家ステイは、それと同じ感覚なのだ。誰にも気兼ねなく、鍵を持って外出する。数字の上からも、日本人利用者がほとんど1～2泊のところ、外国人は長く連泊するケースが多く、2泊から2週間と幅広い。外国人の占める割合は、人数の比較では2割だが、泊数換算にすれば4割に跳ね上がる。また、1棟に部屋数が多いことも家族で来日する場合には魅力。食事は、自炊が禁止となっているが食器類は充実していて、電子レンジやコーヒーメーカーも用意されている。弁当や飲み物を買ってきて、食事を取るケースも多いようだ。

町家の宿泊自体も欧米人には異文化体験となっている。「床の間」の意味がわからず、スーツケースを置いてあったり、ベッド代わりに赤ん坊を寝かせたりすることもあった。庵のスタッフは、「床の間」について、絵画や掛軸用の置物などを展示する空間であると、その文化をしっかり説明する。一方で、水回りなど最新設備は充実している。ウォシュレットなど日本で初めて見る設備機器に興味を示し、メモを取り、買って帰国する外国人もいるという。

庵の人気のひとつに、建物のしつらいがある。新新な和モダンテイストが多く、欧米人にも支持されている。材木町の町家では、大きな書画の前にソファが置かれ、壁にペルシャじゅうたん、チェストの上にはアフリカの置物など、多国籍の調度品がハーモニーを織りなす。その独特の空間づくりは、すべてカー氏自身によるプロデュースだ。

再生というと、とかく新築のように綺麗にリフォームされるケースが多いが、庵の町家のケースは、極力古いものを残そうという姿勢が一貫している。美濃屋町の町家で、左官仕上げの壁に小さな古キズが残っていた。この古い左官壁には、年月の経過で仕上がった深みのある色彩と質感がある。新しく作ろうとしても、高い技術を持った職人といえど、この風合いを出すことは不可能。だからその壁は、あえてそのまま残している。また、キズがいくつもある柱もまったくそのまま。それでいて快適さを保つために水回りや床はしっかり新しくなっている。

このめりはりこそ庵のスタイルで、本物の町家に泊まったという欧米人の顧客満足度を高めているのだろう。

●庵の運営する京町家の滞在施設

場所	特徴	間取りとサイズ	定員
恵美須屋町	主がお茶の先生であった昭和初期の建物から、もてなしの心遣いが伝わる。数寄屋風の意匠が残る。	約100㎡ 2階建て	2～6人
姉屋町	丹波の豆問屋だった町家。築130年を経てなお興もしい柱梁は、機能美すら感じさせるつくり。	約250㎡ 2階建て	2～10人
西洞小路町	畳室、見世、庭のつくばいのある大正時代の町家。お茶を教えていた時、反物を織っていた時がある。	約200㎡ 2階建て	2～14人
石不動之町	お隣とお揃いの丸窓が愛らしい、小さな町家だ。高窓から射す光、庭の篠竹、台所には井戸の名残り。	約80㎡ 2階建て	2人
西六角町	虫籠窓の部屋、古材を磨いだ梁、漆塗の戸帳、壁に掛けた狂言の衣装。築100年、住み継がれてきた町家。	約100㎡ 2階建て	2～4人
和泉屋町	明治には商人たちが憩う宿。目の前の鴨川は、水面を渡る風、水鳥の囀る声、移り行く景色もしつらいだ。	約110㎡ 2階建て	2～6人
祇園新門前	骨董、古美術商の並ぶ「シンモンゼン」通りの名は、欧米で特によく知られているそうだ。	約140㎡ 2階建て	2～6人
材木町	春には桜湯の桜、夏には青柳。程よくなじむ緩やかな造りは、芸妓が住まいにした町家。	約90㎡ 2階建て	2～4人
三条西洞院町	絵をたしなむ主が家業であった刺繍の工房をアトリエに変えたもの。作家、画家、多彩な客人が集まった。	約115㎡ 2階建て	2～6人
美濃屋町	正面に麗しい鴨川の水面。清水寺の塔。北山杉の美室を備えた心癒やすしつらい。代々の医家の住まい。	約185㎡ 2階建て	2～6人

1泊の料金は1棟2万5000円～15万円で、利用人数や町家、利用時期によって異なる。詳細は庵のウエブサイト（http://www.kyoto-machiya.com/）で。

ボランティアによる調査隊。京町家の専門家と3～4人のチームを組んで1日約70軒を回る

京都市とNPOの保存運動

京都市は、04年12月の景観法施行を受け、良好な景観形成に向けた取り組みを進めるため、京都市景観・まちづくりセンターを05年5月に全国初となる景観整備機構に指定した。このまちづくりセンターが、地元の多くのNPO法人と連携しながら、町家保存活動の中心的役割を担っている。

京都市内には推定5万軒あるとされている町家が、毎年2%の割合で減り続けているという。そこで、実態の状況はどうなっているか、家主の将来の意向についてのアンケートなどの調査が始まっている。08年10月から10年3月まで、土・日曜、祝日の9～17時を利用して、ボランティアが京町家の専門家と3～4人のチームを組んで調査している。現在の登録者は450人で、毎回50～60人が参加する。

また、京町家が失われていく現状に胸を痛めた1人の篤志家が、04年、京都市に5000万円を寄付し、さらに国と市や一般の人々の寄付をまとめ、基金をまちづくりセンター内に設立した。それが京町家まちづくりファンドだ。基金額は創設された05年度で1億5000万円。町家に住み続けたい、あるいは町家を生業などに活かし続けたい人々が利用でき、必要な工事費用の一部など最大500万円の助成が受けられる。ファンド利用者には積極的に町家保存活動にかかわってもらっているという。現在も寄付の拡大のため、1口15000円からの寄付を一般から募っている。

昨年11月には、立命館大学のリム・ボン教授が中心となり、ニューヨークで京都創生海外発信プロジェクトも実施。京町家の価値を語え、資金の確保も含めた保全・再生の方策について、海外の歴史的建造物保存活動を行っている団体・活動家等と意見交換を行った。建築家の隈研吾氏はニューヨークのプロジェクトに参加して、京町家の美学や地球環境の問題から語るなど、世界に発信する動きも始まった。

町家再生の取り組みは、盛んになってからここ10年というところだが、まだ研究段階にあり、NPO法人などの協力により試行錯誤が続く。庵の町家スタイルは、そのひとつの答えを提案している。さらに課題として庵が実践していることは、無理をしない経営。勢いに乗るあまり、サービスの低下を招くことのないよう、本物志向に対応する風合いとホスピタリティーを大切にしていこうというのだ。

新たに町家のオーナーから相談を受けるケースも増えたが、庵独自の基準を設定している。まず老朽化の程度が重要で、傷み具合が進んでいると、かなりの修繕を必要とし、せっかくの風情を失ってしまうからだ。そればかりか、費用も莫大にかかってしまう。次にロケーションが問題になる。庵の町家が母条通り近辺に集中しているのは、オペレーション可能なエリアであり、バイリンガルスタッフが何か相談を受ける場合、すぐに駆けつけられる範囲としている。また、宿泊客が気軽に観光ポイントに足を運べる立地でもあり、場所に不慣れな外国人にフィットする。将来的には旅行会社による取り扱いも予定しているが、予想を超す反響から、現時点では調整段階にあるという。

TRAVEL JOURNAL 2009年7月

京町家ステイ

高級ホテルはもう飽きた。

ここ数年の週末の京都は、宿を取るのがちょっと困難なくらい混み合っている。春の桜、秋の紅葉の、いわゆる観光ハイシーズンに至っては、「いくらネットで探しても一室も空いてない」事態だという。そんなに？　と驚くけれど、一説には、「京都市内全域の客室数よりも、新宿区全域の客室数のほうが多い」らしい。たしかに、建築物に高さ制限のある京都、よく考えれば10階まであるホテルが珍しいのだから、「それはそうかもね」と思わされます。こんなに愛されているのに、宿がないなんて。少し前までは「困った！」という方に、お隣の府県で交通の便のよい大津、新大阪のホテルをご紹介していましたが、今ではその手もすっかり皆の知るところとなり、いよいよ不便になってきているようすです。

でも、住んでいる京都人に言わせれば「なにもわざわざこんな人の多いときに来なくても（ゆっくりおもてなしもできませんし）」となる。

たとえば、ほとんどの桜がソメイヨシノで、一斉に咲いては散ってしまう東京の街と

ミソジの京都　2009年10月

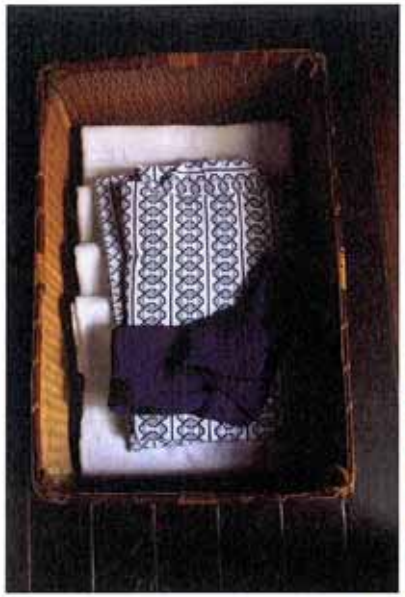
京町家ステイ

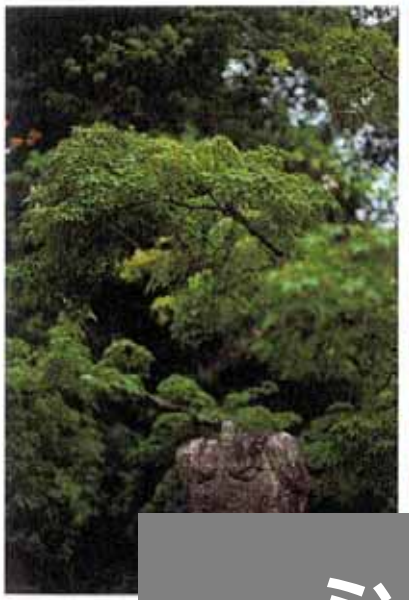
は違い、この古い街では山桜、ソメイヨシノ、さらには御室桜と開花期の異なる花が順々に咲くので、ほぼ一ヶ月近くも桜の景色を楽しむことができる。もっと極端に言えば、観光客がもっとも少ない六月の雨の京都さえも、お寺や神社の新緑が雨にひき立てられるのもまたうっとりするほど美しい光景であって、「それはそれで、きっとよろこんでもらえると思いますけれど」というのがわたしたちの本音なのです。

京都の旅も三度目となれば、その辺の事情がうっすらとわかってきて、子連れの家族旅行や団体旅行でもなければ「日をずらす」手段を選択するようになる。さらに、旅行会社の手が及ばないタイプの宿を選択する賢さが出てきます。

たとえば『小宿　布屋』のような、古い町家を改装したちいさな宿。サービスマンもいないし、布団も自分であげなくてはいけないし、TVも置いてない場合が多い、いわば京都版B&B。これを不便と不平を言うか、不便さを楽しむかは、その人次第。ガラガラと窓を開けたら通り向かいのおうちの虫籠窓が見えているのも、「まるで暮らしている人の目線みたい」と思えばわくわくしてくる。盆地の京都にいわゆる「ナイスビュー」などもともと存在しないので、4階くらいの中途半端な眺めより、よほど貴重なのです。

「小宿　布屋
おやど　ぬのや」
京都市上京区油小路丸太町上ル米屋町281
☎075-211-8109





ミソジの京都　2009年10月

京町家ステイ

嵯峨の「慶王院」。600年の時を経た山門が迎えてくれる。朝のお勤め（坐禅）を終えた後の精進料理の朝食がひときわおいしい。

ミソジの京都 2009年10月

京町家ステイ

ないない尽くしでエアコンもない『あずきや』では、夏の盛りに一ヶ月近くの「夏期休業」があるのもご愛嬌。このあたりの宿は、手づくり市の15日、弘法さんの21日、天神さんの25日が毎月人気というのもユニークな特徴で、ここからキモノを着てお出かけする人も少なくないのだとか。

こんな風に書くと「つまりは民宿？（だったらイヤよ）」と思われるかもしれないけれど、そっちには転ばないのが京都の「おもてなし文化」。「町家ステイ」というスタイルを広く世に知らしめた、東洋文化研究者・アレックス・カー氏による『庵』には、「高級ホテルはもう泊まり飽きたわ。だって、世界中どこも一緒だもの」というVIPが次々と訪れている。なるほど、リゾート地ならいざ知らず、街を楽しむことこそが京都の旅の醍醐味。ホテル室内のふかふかの絨毯を踏みしめる時間に浸るより、むしろふかふかの苔を見るために人里離れた寺まで足を運びたい。そう思わせる魅力がそれだけたくさん「街」にある、というのも理由のひとつでしょう。そして、日常生活がどんどん快適さを増す現代、「少々不便でも、暮らす人の目線で訪れた街を覗いてみたい」というのは旅の贅沢の極みなのかもしれません。

そしてもうひとつ、京都で忘れてはならないスティスタイルといえば「宿坊」。たいてい早い時間（19時半くらい）に門限があるので、「誰にでも」というものではないけれど、とくに夜遊びをしない女性のひとり旅なら、ぜひとも一度トライしてみていただきたい。

わたしがおすすめするのは、嵯峨の『鹿王院』。

ここは、かの足利義満が長寿を願って建てた禅寺で、古くは「京都十刹」第五に数えられた名刹。なんとその一室が、女性専用の宿坊となっているのです。神秘的な静謐さをたたえて山門から中門に続く石畳を歩き、わが宿に辿り着くという体験はまさに特別なもの。清らかな悠久の時間のなかに一晩身を置けば、きっと日常の些事など忘れてしまえます。現に、「自分のこころを切り替えに」訪れるリピーターも多いのだとか。清々しく目覚めた翌朝、とりわけうれしいのは、舎利殿にて行われる朝のお勤め（坐禅）と塗りのお膳に並べられた朝食。シンプルながら滋味深い精進料理は、ご住職の奥さまの手づくりで、京の禅寺ならではの丁寧なおもてなしにもふとこころが温まります。

世界のすべての情報がウェブから安易に手に入るとは限らない。年齢とともに上がる経験値の高さを最大限に生かして、快適さか、暮らし的か、ヒーリングか……自分の嗅覚で自在に選びとる京都一泊の楽しさこそほんものだ、と思うのです。

『あずきや』
京都市東山区三条通分木町272
☎075-771-0250
一泊5500円から
朝食1000円
※一棟貸しの「セム」も併設。

「手づくり市」
「百萬遍知恩寺」で毎月15日に行われる市のこと。若手のモノ作り系作家の出店が多く、近年熱く注目されている。

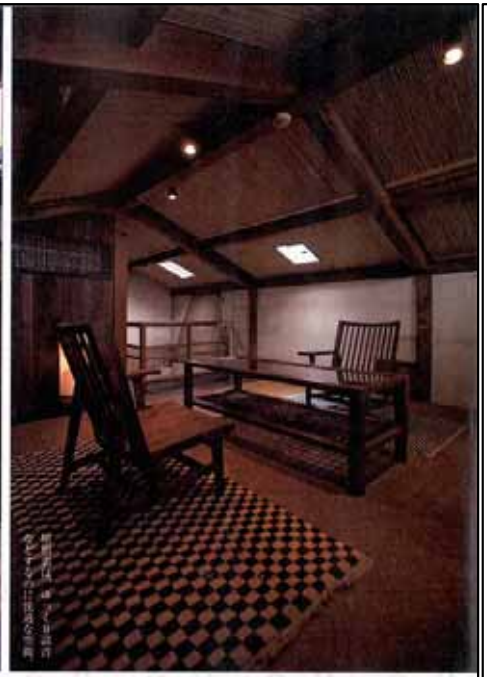
「弘法さん　こうぼうさん」
「東寺」で毎月21日に行われる縁日のこと。弘法市。骨董、古着、がらくたなどの露店が立ち並ぶ。

「天神さん　てんじんさん」
「北野天満宮」で毎月25日に行われる縁日のこと。境内に五百近い露店が並ぶ。

『庵』京町家ステイ　いおり」
☎075-352-0211
市内各所の古い町家を丁寧にリノベートして、ラグジュアリーな「京町家ステイ」を提案。インテリアと一泊の値段は家の大きさやロケーションにより異なり、現在十軒の町家が一棟貸しされている。

『鹿王院　ろくおういん』
京都市右京区嵯峨北堀町24
☎075-861-1645
一泊朝食付き　4500円

京町家ステイ



体感する
町家暮らし。

庵 美濃屋町

生き返った町家で“京に住まう”を体験する。

京都の美しい街並みを引き立てる町家。しかし、老朽化や近代化の波に押され、次次に取り壊されているのが現状だ。そんな減りゆく町家を残そうと、明治・大正期に建てられた町家を再生させ、1棟まるごと貸し出しているのが「庵」だ。

10棟目となる美濃屋町の宿は、築80年の町家を改装し、今年3月末に完成した。「唐長」の唐紙を使ったふすまや火鉢のあじろ、手彫りの欄間など、貴重な意匠も数多く残されている。1階にはリビングと美しい坪庭を望む茶室、2階の6畳間と15畳の和室、さらにその上には屋根裏の板間がある。水回りはきれいに整えられ、1階の檜風呂に加え、2階にはシャワールームを完備。リビングには床暖房が完備され、冬の寒さ対策も完璧だ。

完成から連日予約で埋まっているそうだが、その人気の理由は、テラスつきのリビングから一望できる鴨川だろう。大きく開放的な窓の外に広がるのは鴨川の水面、その先に見えるのは清水寺の塔頭。さらに左を見渡せば、五山の送り火で有名な山々もあるのだ。

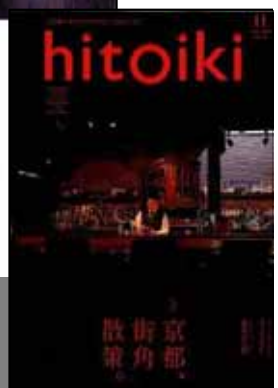
「庵」のスタッフから町家の鍵を預かったら、その後の過ごし方は人それぞれ。徒歩5分と遠い、食事はついていないので、外食するもよし、仕出し屋から出前を取るもよし。朝は鴨川沿いはもちろん、清潔たっぷりの木屋町通の散歩もおすすめだ。建物を出ですぐの松原通から鴨川を渡れば、そこは舞妓や芸子の貸き屋が集まる祇園宮川町と、京都らしさをあますところなく堪能できる立地だ。もちろん、町家そのものを満喫するだけでも、時間はあっという間だ。その魅力を味わいつくすには、何度訪れても足りない。リピーターが多いのも納得である。

「お客さまはここでの滞在にいろいろな思いがあると思います。記念日であったり、雨々から楽しみにしていた旅行だったり。庵スタッフ全員は、そんな皆さまに素敵な思い出をお持ち帰り頂ければと心から思っております」と、広報の川島志保さん。

町家に住まう感動を提供する、唯一無二の施設がここに存在する。

IORI MINOYACHO

□住所／京都府京都市下京区木屋町松原上ル
□電話／075-352-0211（庵事務所）
□定員／2名より最大6名まで
□料金／45,000円～ ※ご利用人数、時期により異なります。
□備考／チェックイン15:00、チェックアウト11:00
□URL／www.kyotomachiyu.com/



hitoiki 2009年11月

京町家ステイ

窗戶的光線帶過和意建空的溫暖，映照襯著出一幅日常浪漫畫作。

美麗的晨光，光線高升的NA設計夢幻版的京都過人。

沿著鴨川流水邊的風雅宅邸 町家設計風的潮流正席捲

庵 材木町

景色清幽，流霞在京都市中心的鴨川，有著清澈見底的河水，河邊芳草禮真的常見水鴨的姿影，以及閑閑覓覓的白鷺，而設計風町家「庵 材木町」就位在鴨川河畔，坐在一樓屋外的露天陽台樓板上，腳下就是鴨川溪水，遠清楚看見河對岸的櫻樹及櫻花，由春到秋展現著迷人的風情。

這棟將百年老町家建築付予新意的設計風町家，採獨棟出租式，裡面所有的家具與擺設都是當有歷史的老古董，但卻加入現代的設計元素，成為鴨川畔鮮少人知的風雅名宿。

從露台上往四周看，鴨川約一邊是熱鬧的川床料理店，許多觀光客在樂高於河面上俗稱「川床」的橋橋米高台上飲酒作樂，河的另一邊卻是更貼近京都當地人的生活，有人在溯狗，有人躺在河畔草地上睡覺，還有老爺爺站在河裡釣香魚。

一樓的客廳十分寬敞，可以讓三五好友有說說人喝茶。

也許，京都千頭萬緒也有如盲走，而詩屬守一隅非在，細細品味。

這二樓的窗戶，也可欣賞鴨川的美景。

坐在露台上，喝著咖啡，欣賞鴨川的美景。

除了將鴨川美景獨攬懷中，附近即是京都繁華街河原町，祇園及花見小路，晚上可在鴨川旁的先斗町邊或木屋邊上的餐廳享用京味料理，或是小酌一杯。早上可泡杯咖啡，簡單喝些土司，斜靠在露台上曬曬朝陽，或是看本書，感受京都風情。

「庵」的設計理念

「庵」的表間Alex Kim是位深愛京都文化的設計師，他將許多類記在時代洪流裡的京都舊町家建築和古民宅給買下，結合現代室內設計美學理念予以改裝，讓外國人透過實際住宿在非觀光區的一般住宅區裡，深度體驗京都居民生活的美感。

「庵」除了提供整棟町家的出租住宿，也提供外國人體驗日本文化體驗課程，像是茶道、能劇、武士道等，所以常有歐美人士前來長期住宿兼學習，所以這裡的職員都能以英文接待。「庵」目前有數棟大小不一的町家提供住宿，價格依每間容納人數多寡而定，且每間町家的設計風格皆不相同，可以看到東南亞與中國的書畫及古董，也可品味純日式的優雅空間。為了避免火災，全面禁煙及禁止用火，也不提供早餐，但提供有電磁爐、咖啡壺、雞煲鍋等，就像是近年來在歐美極為流行的度假民宿模式。

庵 材木町

地圖對位：P.141.馬丸・河原町
地址：京都市下京區木屋町松原下ル
交通：京阪本線「四条」下車徒步4分鐘
電話：075-352-0211預約時間為10：00～19：00
傳真：075-352-0211
網址：www.kyoto-machiya.com（可用網頁訂房，或是英日文電話預約）
價格：「材木町」整棟町家出租￥17,000-一日（利用人數2人），若人數增加或是出租一週的話，會有更優惠的價格，詳情請參考網站。（Check in 15：00，Check out 11：00）

客廳後方的壁畫，是是一幅以紙面解為主題的金魚浮雕古畫。

屋樓處處可見充滿設計感的古董。

咖啡壺、雞煲鍋、雜誌書、觀音雕和上好好享受這一刻美好。

Wasabi 2008年

京町家スティ

体验纯正京都式生活

要真正体验拥有1200年悠久历史的京都，最好的方法就是选择一家具有纯正京都味道的酒店。我们选择了Iori Machiya。在这里，给人一种回到生活原点般的奇妙感觉，静谧、安宁，一切都保持京都本色，却又不失现代社会的便利，成为此次京都之行中一段值得铭记的回忆。

DATA

Iori Machiya

网址：www.kyoto-machiya.com

门店长搭：石平站之町、惠美須町、古六角町、西洋小路町、新屋町、和泉屋町、柴田屋门町、材木町等。

别具一格的建筑构造

为了使客人可以体验到传统的京都味道，在设计规划时，Iori Machiya就充分考虑到了地域特点，力求保留了传统江户时代的建筑特征。格子门、有席子的房间、土制的墙壁、绿意盎然的庭院等等。连装饰品，也具有和式风味。垂悬的纸帘、落地灯、竹帘、夏日的蚊帐等等，营造出独特的京都气氛。

完美的京都式沐浴

结束了一天的拍摄，终于回到Iori Machiya。这里的京都式休浴室是让人惊喜。浴室里没有一般酒店惯例的单调与乏味，取而代之的是丝柏、石头、木头和花砖，好像回到遥远的镰仓时代，单纯而温馨。一天的疲劳转瞬消失不见。

都市以外的生活体验

下午，忙里偷闲有片刻的休息，坐在屋檐下或者庭院中，享受一段京都式的休憩时光。杂志、阳光、微风……一切都那么自然闲适。那一刻，你会忘记所有工作和生活的压力，只记得这个特别的地方名叫"京都"。

MY PLATINUM京都 2008年11月

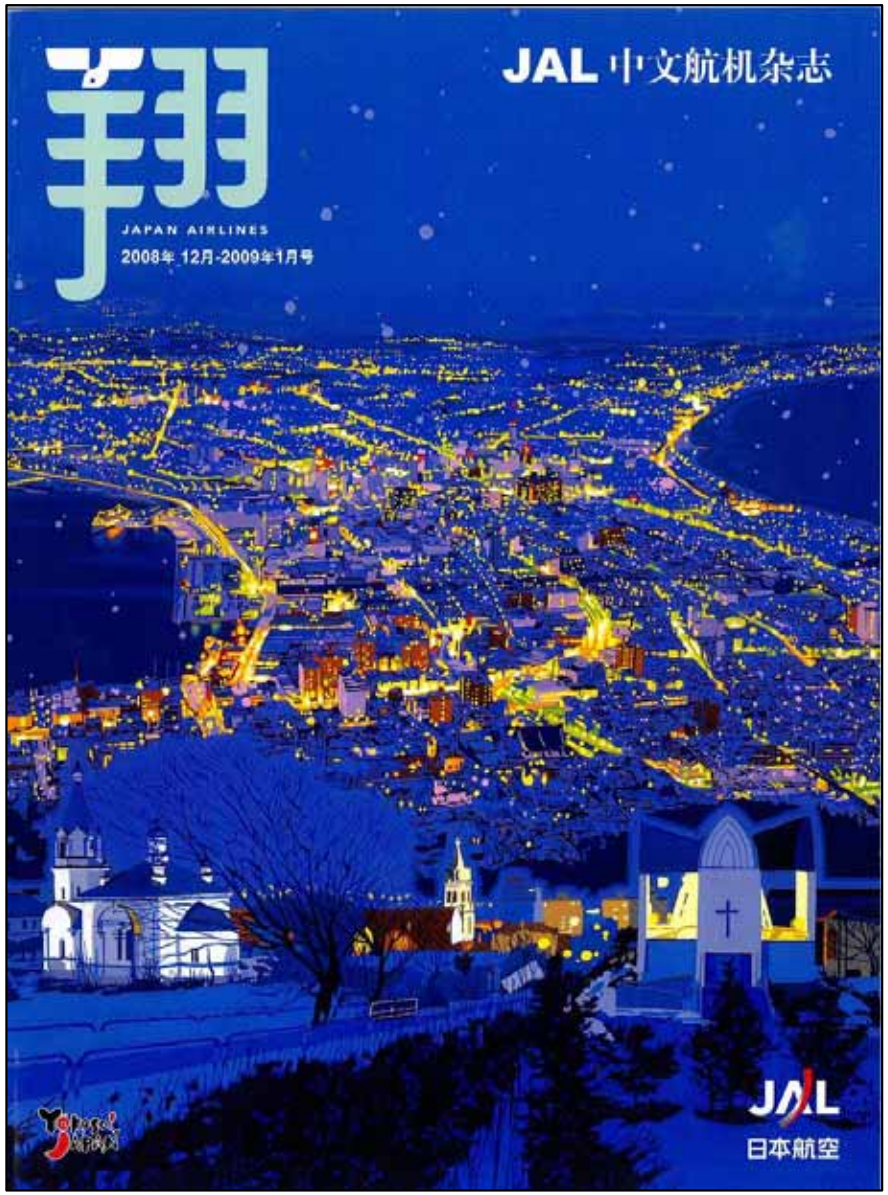
京町家ステイ

晚饭可以悠然信步外出，找上一家馆子；也可以去“锦”菜市场采买一通。在“自己家”中舒舒服服地享受美食之乐。这种时候，最好再备上香浓可口的宇治茶，还有那京都南部著名酒乡——伏见出产的日本酒。

暖透身心的冬日火锅

对于爱“下馆子”的人，向您推荐京都冬季最具代表性的火锅——汤豆腐。做法很简单，就是用海带提取汤汁，然后将豆腐、青菜、香菇等食材放在一起煮，吃的时候蘸点佐料汁。正因为做法简单，方能保持豆腐的原本味道。这虽是一道在日本各地都能品尝到的常规菜，但这道菜美味可口的首要条件是水，要靠优良的水质保证豆腐的口感。正因如此，完全符合这一要素的京都汤豆腐遂成为享誉四方的美味。

信步走到位于京都西木屋町一角的汤豆腐“喜幸”店，店老板浅井喜三笑着迎了上来。“呵呵，也没有什么特别的……”，说话间端上了热气腾腾的汤豆腐。就着清爽的日本酒品味着汤豆腐，体内的寒气随之渐渐消散。还有就是蒸芝麻，芝麻用的是京都的冬季蔬菜——圣护院芜



JAL 翔 2008年12月

庵のビジネスモデル

京都モデル事業

■町家ステイ事業
■オリジン・アートプログラム（体験研修）事業
■ツアー・コンシェルジェ

培ったノウハウ
を注入

コンサルティング事業

■地域の観光まちづくり～運営支援事業
■町家・古民家再生事業
■観光関係事業再生・地域再生事業・経営支援事業

資産不要の
全国多地域展開

■調査・企画コンサル
■運営主体設立コンサル
■運営支援コンサル
■個別案件コンサル

これからの観光マーケット

海外富裕層

国内富裕層

国内個人

■おもてなし
■貴重な体験

■本物
■歴史
■伝統
■文化
■知性
■感性
■特別
■美食

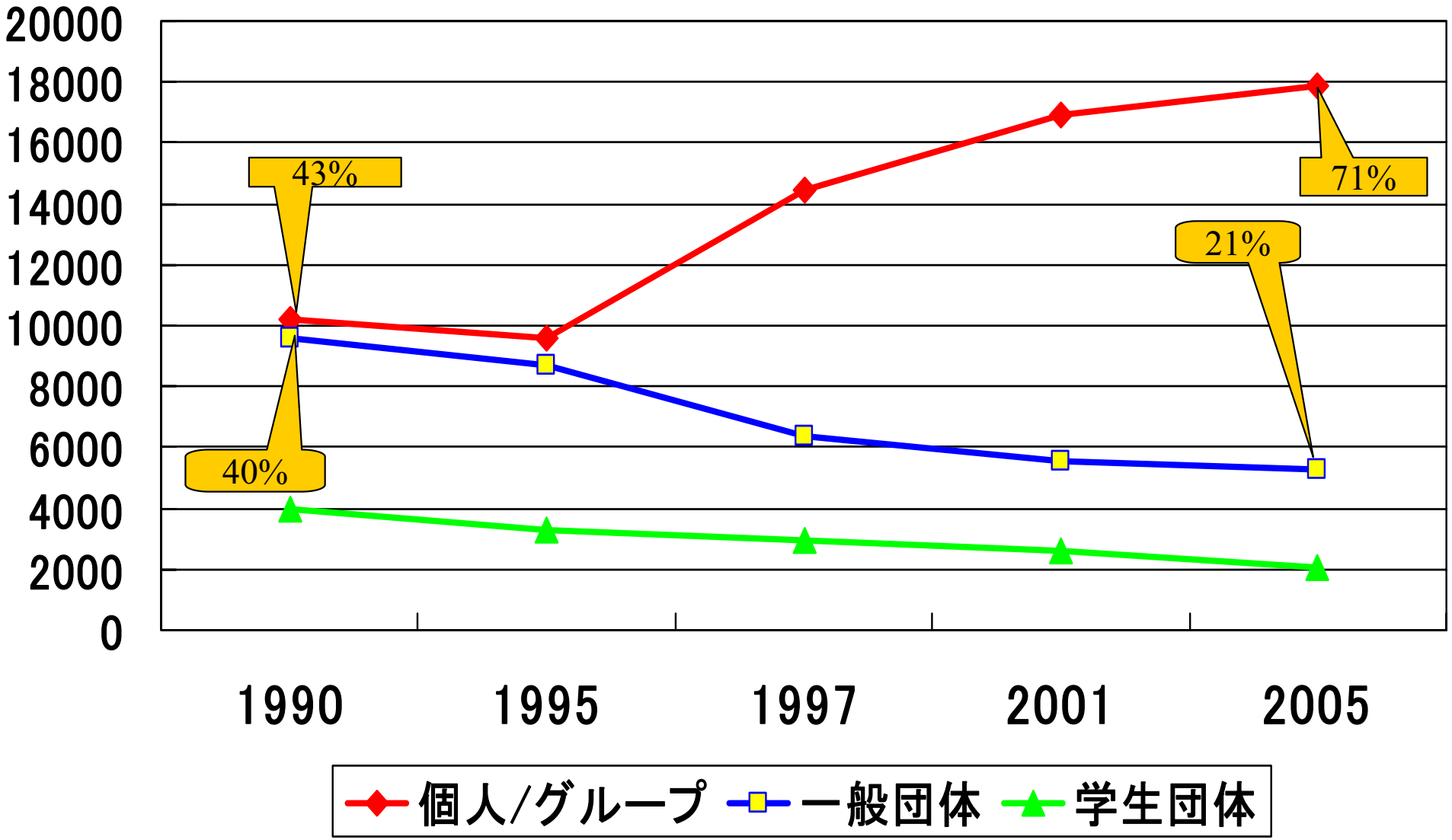
従来型観光が地域経済を活性化するか？

従来型観光	団体＋周遊型、団体＋宴会型、パッケージ・ツアーなど	旅行会社主導

従来型観光地

■観光地は、これに合わせた整備が進む
■大型囲い込み型ホテル・旅館･･･大型旅館は、景観を破壊した。
　ホテル・旅館の中に、横丁・朝市・散歩道ができ、まちなかに観光客は出ない、
　町歩きの楽しみを喪失
　均質化・画一化した料理は、地域特性を感じさせない
■バイキング型温泉旅館再生･･･地産地消に逆行、地域経済に果実を落とさない！
　日本の温泉旅館文化（おもてなしの文化）を破壊
■土産物屋商店街･･･幟はためく商店街は「景観破壊」、地産地消と無縁
■観光地の全国均一化は、地域特性を消失させ、価格競争を激化
■滞在時間の短縮化により、地域経済への影響が小さくなる

宿泊形態は、個人旅行に



「ＪＴＢ宿泊白書２００６」より

観光地よりレベルの高い個人旅行→リピート

レベルの高くなった個人旅行客

世界中の素晴らしい処を知っている既に体験済だ！

世界との競争

リピートは、顧客満足がポイントだ！

春に満足すれば、秋の素晴らしさを想像できるから、秋に来る そして、夏に来る、冬にも挑戦する

美しい日本は、新しい観光客の受容れ体制はできているか？

■美しい町並みを堪能し、歩き疲れた観光客をもてなすことができる『地域特性溢れる』

- ●カフェはありますか？
- ●お食事処、レストランはありますか？
- ●泊まるところはありますか？

観光の経済力

インバウンドマーケット

■パリ＊3000万人・フランス＊7500万人
■京都＊150万人　・　　日本＊ 840万人

■もし＊パリに泊まった人々が、食事・買物･･･一人40万円消費したら？
■一人40万円×3000万人＝12兆円！！！

観光は、裾野の広い連携型産業

地域の全ての産業と連携

■ハード整備：建設・建築・不動産・家具・家電・器・各種消耗品
■飲食と物販：地産地消のあらゆる生産物・加工品・地場産品
■商店街の各店舗＋各種工芸品、花、買物・土産・名産
■交通・運輸・物流・リネン・洗濯・広告宣伝・印刷・ＩＴなど

観光の経済力

観光経済力発揮★必要条件　＝　宿泊

立寄り・通過型から脱却

まちの魅力は？

★美しい魅力的な景観を維持しているか？
★歴史的建造物の保存･活用は、点ではなく、面（エリア）で、実行されているか？
★域内公共アクセスは、整備され、機能しているか？
★おもてなしの施設は、充実しているか？

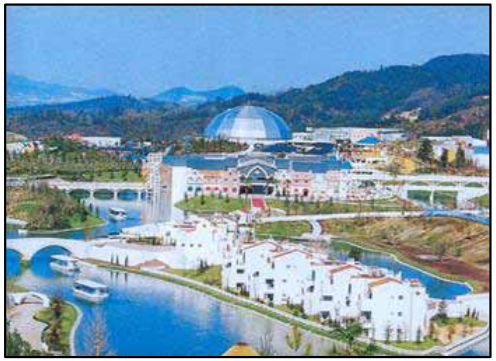
■パリと我が町、京都と我が町を比較してみよう・・・
今からでも遅くない・・・10万円×1万人でも10億円！！

間違えてはならないのは、1,000円×100万人の10億円を目指すのではないこと

行きたくないところ

いかにも「観光地」と感じる所

▼幟がはためく観光地
▼土産物屋商店街
▼製造地不明な土産物の集積
▼観光客向けの高い値段
▼観光客向けの妖しい施設
▼偽物のテーマ・パーク
▼どこでも食べられる料理



行きたいところ

観光地化されてない美しい日本・世界

■美しい町並みのある旧市街地
■農山村
■世界遺産
■本物に触れたい
■大人の知的好奇心が大いに刺激される
■暮らしに根付いた伝統と文化
■固有の歴史
■意外な歴史

行きたくなる　まち・むらの魅力

■文化と歴史、伝統、豊かな自然が大人の知的好奇心を大きく刺激
■そこに、人の暮らしがある
■だから、そこに暮らす人との交流に惹き付けられる魅力
■そこでしか感じない、味わえない魅力
■暮らす人のまちへの愛情を感じる
■暮らす人のまちへの誇りを感じる

これからの農山村観光

休暇は、農山村滞在型へ！

■『農山村』に滞在する休暇を

ー是非過ごしてみたい　24％

ー機会があれば過ごしてみたい　52％

●関心が高いのは20代と30代（83％）

●次いで高いのは60代

《内閣府ー森林と生活に関する世論調査　07年6月》

魅力ある地域特性の継承が課題

地域団体への支援と連携＝担い手育成

■大人の知的好奇心を満足させ、大人のアドレナリンを噴出させる仕組み『大人の体験プログラム』を担う地域団体の役割は重要
■その担い手が、いなくなる危機（高齢化、仕事が無いから若者が流出）
■担い手となる若者の雇用の場を創出することが重要・急ぐべき

■新しい観光ビジネスの創出と担い手人材の育成が急務

偽者＋観光客向け　VS　本物＋上質

●観光客向けの郷土料理
●観光客向けの体験施設
●観光客向けのお土産・名産品

VS

■地産地消の魅力溢れる郷土料理に世界の知恵が加わったおもてなし

＋

■暮らしに根付いた文化・歴史・伝統を体験できる地域特性溢れた仕組み

＋

■地域の暮らしに根付いた地域の産品・名産品

何度も訪れたい、誰かを連れて行きたい憧れの町

■誰もが願う目標にする
■住民が誇りに思う町をつくる
■住民にとって優しい町は、観光客にも優しい町だ
■その明確なヴィジョンを創り、共有する。
　そのヴィジョンに近づくために、１年後、２年後、３年後、５年後、
　１０年後、２０年後の具体的なイメージを持ち、共有する。
　そして、これを達成するための具体的な行動目標を持つ
■この世代、孫の世代で、実現できることもある

憧れの町にする！

何度も訪れたい町にする

おもてなしの準備・心構えは･･･？

まちなか・山里どちらもキープ･クリーン･･･？？？

修景が施され、電柱が地中化された美しい町並みなのに、
▼ゴミが落ちている
▼自動車は放置されている
▼命令口調の注意書きだらけ
▼汚い張り紙・ポスター
▼うるさいほどの幟がはためく
▼美観を損ねる案内板が置かれる